

私にとって熊本とは

王 政凱
WANG ZHENG KAI

私にとって、熊本とは日本での故郷みたいなものです。海外渡航の経験がなかった私には、初めての空港、初めての離着陸、初めての日本語の挨拶などはすべて熊本で実践しました。日本語もうまく話せなかったし、日本のマナーやルールもはっきり分からなかった私ですが、熊本で立派な社会人を目指し成長したので、「僕は熊本で生まれ直したみたいだ」と感じています。

「日本へ留学したら、きっと役に立つだろう」。台湾にはこんなイメージがあります。それで、何故熊本を選んだかという、物価が高くて住みにくい東京や大阪などの大都市を除き、知っているのはくまモンがいる熊本しか残っていなかったからです。そんな理由ですが、熊本とは縁があるかもしれないと思っています。

そして昨年十月、会社を辞めて、少し不安と緊張の気持ちがあってもやる気満々だった私は、熊本に着きました。せっかく留学に来たからには、色々しようと思いましたが、まだ日本の生活に慣れていないうちに、新型コロナウイルスが襲ってきました。感染拡大につれ、祭りやマラソン大会などの行事の取り消しはもとより、学校も休校し、旅行もできなくなりました。夢見た日本にいるのに、何もできずに、悲しくて体の中から何か落下していくのを感じました。

それでも、このウイルスを機会に、普段と違う、緊急事態の熊本が見えるようになりました。誰もいない下通、熊本城の桜、場所は秘密の花火大会、マスクをいつでもつけている方々など… アルバ

イト先の病院の看護師さんまでも、新型コロナウイルスに関連した感染症対策に関する対応について、留学生たちに詳しく教えてくれました。意味が通じない時も、身振り手振りで一生懸命伝えようとしてくれました。こんな風景、きっと二度とないだろうと思っています。

今年が始まってからずっとこのように、熊本のみんなと一緒に自分と他人の健康のため、三密などのルールを守ったり、色々頑張ったり、我慢したりしてきて、大変ですがとても深い感銘を受けました。それをきっかけに、今、私も熊本人と言ってもいいだろうというような感じがします。みんなの協力によって、この戦いに勝てると思っています。

言語や文化が違うので、不便な事はあるかもしれませんが、心の故郷は国籍を問いません。ですから、できるだけ自分の能力を高めて、熊本で知識を学ぶだけではなく、熊本と自国の理解や交流を促進させることができる人材になれるよう、私は頑張りたいと思います。いつか自分の力で熊本に貢献できると嬉しいです。